





「みちびきを利用した実証実験」 成果報告書（概要版）

| | |
|-----------------------------|--|
| 実証実験名 | みちびきを活用した 走行車両（モビリティ）における地震等災害対策 に関する実証実験 |
| 実証チーム構成 組織・団体名 | 三菱スペース・ソフトウェア株式会社 （協力企業：SBドライブ株式会社） |
| 実証実験概要 (200文字程度) | 将来、公共交通等に自動運転車両を導入していくためには、地震等の災害発生時に乗客を守る安全・安心機能を実装することが重要となる。 本実証では、みちびきからの信号と地域のGIS情報とを組み合わせた、自動運転車両の緊急停止システムと、その場所の危険度をリアルタイムに通知するシステムを構築。埼玉県川口市SKIPシティにて、この2つの防災システムを利用する自動運転バスを走行させ、各システムの実現性と有効性を実証した。 [199文字] |

実証実験成果（図表等を用いて自由に記載してください）

| アプリケーション概要（使用データを含む） | 実証方法・規模等 |
|---|--|
| <p>・各機能の構成：</p> <p>① 走行車両緊急停止システムの構成</p>  <p>② リアルタイム危険度通知システムの構成</p>  | <p>・日時：2020/2/25～28</p> <p>・場所：埼玉県川口市 SKIPシティ</p> <p>・実験内容： 自動運転バスの走行中に相模トラフにてM7.3の地震が発生したと仮定。緊急地震速報とみちびきからの災危通報の各訓練報を実際に発報し、実時間で各システムの機能実証を行った。</p>  <ol style="list-style-type: none"> 1 出発直後に地震が発生し、被災する設定 2 緊急地震速報の受信をトリガに、高精度位置情報と地震情報を用いて、バス位置ピンポイントでの地震震度と到達時刻を予測。バスの遠隔モニタシステムに地震情報を送信。 3 バスを緊急停止。停車した場所が、災危通報とハザードマップに照らして危険地域かどうか判定し、画面に表示。 4 周辺の避難所情報を表示し、バスの乗客の避難判断に活用する <p>・実験車両：自動運転バス（ポンチョ）</p>  <p>・実験参加者：約150名</p> |
| <p>ビジネス化に向けた課題と今後の展望</p> <p>・ビジネス化に向けた課題： 緊急停止システムは、実際に公道で停止させるための更なる安全性確保（停止方法等）について検討を進めることが必要。危険度通知システムは、関連するハザードデータの充実化やデータ共有の取り組みを進めていくことが今後重要となる。</p> <p>・今後の展望： 自動運転に関連する業界を中心に本実証結果を紹介していき、認知度向上を図る。また、学術研究機関との連携や、防災関連事業等での活用も検討する。</p> | <p>まとめ</p> <p>みちびきの信号を活用した地震防災機能を備えた自動運転バスの走行実証実験の結果、みちびきから配信される測位信号や災危通報を活用することで、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地震発生時の車両緊急停止機能(緊急停止システム)による自動運転バスの安全な停止 ● 避難時の支援情報提供機能(危険度通知システム)による自動運転バスの乗客に対する防災情報(危険度など)の提供 <p>各々の技術検証ができ、実用化に向けての有用なベースラインデータを得られたと考える。</p> |